

## わが歩みと未来への提言(下)

アスカ工業株式会社

取締役会長 天 野 久

一業界他社に先駆けて早くから海外、特に米国との交流を活発にやられてきたとお聞きしています。昭和30年代ごろの米国のアルミニウム二次合金業界はいかかでしたか。

「米国に友人が多くおり、よく呼ばれて出かけて行った。今振り返ると米国のアルミ業界は当時がピークであった。米国資源リサイクリング協会(NARI)の集まりでも実に多くの人々が集まり、業界の活気の良さを感じたことを覚えている。日本の代表として講演も務めさせていただいたことあったが、日系米国人で上院議長も務めたダニエル・イノウエ氏と共に講演したことも今でも記憶に残っている。米国の業界の力を強く感じた」

一米国での講演ではどのような内容をお話しされたのですか。

「1977年9月にハワイ州のマウイ島で行われたNARI西部年次大会では『日本の経済とアルミニウム業界』といったタイトルで話しをした。当時の資料をみるとオイルショックの中でありながらも日本のアルミニウム二次合金業界は堅調に推移していたと講

演で述べており、76年にはアルミ二次合金地金の生産量が過去最高に迫る50万トンに達したと説明している。また、当時の需要先は60%がダイカスト、残りの40%が砂型鋳物であった。原料については76年の輸入量でインゴットが8万トン、スクラップが7万トンであったとも語っている」

一その後の米国のアルミニウム二次合金業界の状況については。

「米国のアルミニウム二次合金業界は縮小の道を辿り、NARIの参加者も年々少なくなっていった。私が社長を引退した頃には日米の業界同士の交流もほとんどなくなってしまった。米国の企業が合併統合を繰り返したため企業数が減少し、業界としての活動が成り立

たなくなっていったのではないかと思う」  
一過去においてわが国と米国のアルミニウム二次合金業界とのレベルの差を感じられたことはありましたか。

「技術的なことで米国のまねをしたということは記憶にない。日本は国内で独自に技術力を高めてきた。実際、当時から日本と米国の業界では根本的に考え方が違った。特に亜鉛に関しては相違が大きかつ



た。米国ではアルミ二次合金において有用金属として用いられたが、日本ではアルミ合金にとって有害な金属として認識されており、相いれないところがあった。今でも米国の亜鉛規格は2%と高く、日本はADC12で1%以下に抑えられているなどの違いがある」

—米国と日本の亜鉛の考え方の違いはなぜ生じたと考えられますか。

「詳細はわからない。昔から亜鉛に関しては考え方に相違があった。これはあくまで個人の考えだが米国は大手の亜鉛メーカーがあったことが影響したのではないか。日本は亜鉛メーカーの影響力が少なく、当初から亜鉛をアルミに加えない考えが主流であったと記憶している。ADC12は完全に日本人が製品として確立したもので、日本独自の考え方で培ってきたものと言える。私のアルミ人生の中でも不思議であったことの一つと言える」

—協同組合中部精親会では長年にわたり理事長を務めてこられました。

「非常に愉快的な仲間達に囲まれ楽しかった。業界のために、との思いから一生懸命に活動した記憶がある。中国や台湾、アメリカなどから業界関係者に来てもらい話しをしてもらったりもした。国際的な関係構築にも苦心したことを記憶している。だが、倒産や清算に追い込まれる仲間も増え、私が理事長を引退した後、残念ながら会は解散してしまった。振り返っても非常に惜しい思いがある」

—業界への貢献が認められ黄綬褒章を受章されましたが、その当時の思いはいかがでしたか。

「個人ではなく、精親会の活動が評価されたものと感じている。個人的には勲章への拘りはあまりなかった。正直なところ断

ろうと思ったが、たまたま、勲章担当者が地元の人で後進のためにも受け取れと説得を受けたこともあり、受け取ったとの記憶がある」

—米国ミネアポリス市の名誉市民にも選ばれています。

「昭和30年代、青年会議所在籍当時に世界大会が東京で開催され、翌年が米国での開催であった。宴会の場でアメリカの担当者とは意気投合して行くことを決めた。飛行機が本土まで一度に飛ばず、ハワイの手前で一度給油して行った記憶がある。日本人が米国を訪れるのが珍しい時代であったため、たまたま頂けたものだ」

—自社の社員の方々との思い出はどのようなことがありましたか。

「現在まで続いているアスカセミナーだが、当初は社員教育の場だった。その他にも年に何回か勉強会を開催し、次世代の人々に想いを伝える場を設けてきた。また、社員と共に懇親のため海外などにも赴いてきた。その際、みんな興奮してなかなか寝つけなかったことなどが楽しい思い出として今でも目に浮かぶ」

—最後に業界の後進の方々へアドバイスをお願いします。

「日本のアルミ産業のレベルは高く、その重要性も大きい。無くなれば多くの産業が立ち行かなくなってしまうだろう。だが、逆に他の産業が無くなればわれわれも存在できない。まさに持ちつ持たれつの関係であり、産業とはそういったものであることを忘れてはならない。また、アルミに限らずすべての資源を大切にする思いを持ち続けてほしい。そこがわれわれの仕事の原点であり、世の中に多少なりとも貢献できる箇所だからだ。誇りを持って仕事に取り組んでいただきたい」

## 中国海関総署発表 8月の輸入通関統計

中国当局によるスクラップの輸入規制により代替原料として地金を輸入する動きが拡大しており、6月以降10万トン超の輸入が続いています。

### 中国海関総署 発表通関統計

#### 8月 中国のアルミ合金 輸入量

国名	重量(トン)	前年同月比
マレーシア	41,644	(9倍)
韓国	16,927	(23倍)
インドネシア	11,535	(140倍)
イタリア	11,286	(19倍)
ベトナム	11,142	(4倍)
その他	53,092	
合計	145,626	(9倍)

## 8月のアルミ合金輸入量

財務省発表の8月の貿易統計によるとアルミ合金輸入量は40,778トンで7月と同水準でした。

### 財務省発表 輸入通関実績

#### 8月 日本のアルミ合金 輸入量

国名	重量(トン)	前年同月比
中国	9,618	(-60.5%)
マレーシア	787	(-74.7%)
スペイン	691	(-79.0%)
ナイジェリア	2,446	(-58.6%)
U A E	6,625	
ロシア	8,064	(-52.9%)
ウクライナ	174	(-87.7%)
その他	12,373	
合計	40,778	(-58.3%)

## 7月生産

## アルミ鋳物 ダイカスト 減少率 大幅改善

経済産業省がこのほど発表した7月の生産動態統計によると、アルミ鋳物の生産量は前年同月比30%減の28,819トン、アルミダイカストは24.3%減の69,161トンでした。鋳物は10ヶ月連続、ダイカストは12ヶ月連続して前年同月の実績を下回りましたが、ともに輸送関連の分野は5月以降、前月比プラスで推移し、生産量や前年同月比の減少率に改善が見られます。

アルミ鋳物は、主力の自動車用が31%減の26,833トンで10ヶ月連続のマイナスとなりましたが、自動車生産の復調を背景に前月比では72%増えました。一般機械は21ヶ月連続、その他は12ヶ月連続のマイナスでした。

アルミダイカストは、主力の自動車用が12ヶ月連続のマイナスの62,667トンですが前月比では60%増えました。二輪は3ヶ月ぶりに1千トン台を回復しました。

### 7月アルミ鋳物・ダイカスト生産

(単位トン・前年比%)

①アルミ鋳物	28,819	(70.0)
② 一般機械	531	(84.9)
③ 輸送機械	27,401	(69.2)
④ その他	887	(87.8)
⑤アルミ・ダイカスト	69,161	(75.7)
⑥ 一般機械	2,080	(80.2)
⑦ 電気機械	1,125	(77.6)
⑧ 自動車	62,667	(76.3)
⑨ 二輪車	1,304	(65.0)
⑩ その他	1,985	(62.5)

## 第57回 アスカセミナー (社内セミナー)

- ・日時 11月13日(金) 10時~12時
- ・場所 西尾コンベンションホール(写真)
- ・講義 「アスカスピリット+アルミ市場の現状」  
専務取締役 岡田正直  
「安全衛生+溶解作業の基本・復習」  
取締役 永田規雄  
「外から見るアスカ+需要の変化」  
取締役 鈴木孝敏  
「アルミリサイクルの重要性」  
取締役社長 天野 卓



## 社内情報

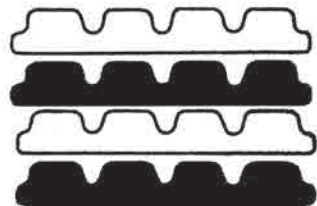
- ◎1964年より継続して開催してまいりましたアスカセミナーは、本年は社員向けのセミナーとして上記の通り開催します。
- ◎ソーシャルディスタンスをとりながら、久しぶりに全員参加の勉強会です。
- ◎西尾コンベンションホールを利用して、祈願会、アスカセミナーの新たな形式を模索中です。

## 編集後記

- いよいよ米国大統領選の開幕です。コロナ禍で集会に制限がされた選挙戦がどう影響されるのでしょうか。
- どちらにせよ、米中関係の改善が世界の経済に大きな影響を与えるはずで。選挙後に期待します。
- 欧州でコロナウイルス感染が再度拡大し始めました。インフルエンザのシーズン到来も心配です。
- 手洗い・うがい・マスク着用で予防しましょう。

## アルミ缶リサイクル 製造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、 casting 易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。



ISO 9001 審査登録

## アスカ工業株式会社

〒444-0303

愛知県西尾市中畑町卯新田上28

TEL <0563> 77-0500(代)

FAX <0563> 77-0501

<http://www.al-asuka.jp/>